

研究ノート

山口県萩市、長門市および阿武町における野外教育の計画・実施状況

○村本名史*1 楊井正明*1 国広勝代*1

キーワード：山口県、萩市、長門市、阿武町、野外教育、調査

1 緒言

野外教育は学際領域として位置づけられており、日本野外教育学会では「自然・人・体験」の3つのキーワードを柱とし、野外活動、自然体験、環境教育、森林・林業教育、博物学、自然解説、自然保護、自然療法等について研究が進められている¹⁾。

一方、「青少年の野外教育の振興に関する調査研究者会議」からは野外教育プログラムの課題として、実施期間の短さ、一貫したプログラム作りの欠如、プログラムの開発の不足、効果分析・評価研究の不足が挙げられている²⁾。一貫したプログラム作りの欠如に関して、具体的には目的、それを達成するための指導方法とプログラム内容を検討しておくべきであり、事前準備や事後学習も含めてのプログラム作りが必要である。次に、プログラム開発の不足だが、例えばキャンプはテントに寝袋で泊まって飯盒炊爨しなければならないという固定観念を持っていけば、多様なプログラムの開発を阻害することになる。そして効果分析・評価研究の不足だが、これは野外教育プログラムがどのような成果をもたらすか、目的をどの程度達成したか、方法やプログラム内容は適切であったかという評価についてあまり行われていないということである。野外教育は客観的な成果の分析が極めて難しい領域であるため、標準化された効果分析・評価研究の手法が必ずしも確立されていない。

一方、山口県には北長門海岸国定公園（青海島、明神池、須佐湾）や秋吉台国定公園（秋

芳洞、景清洞）³⁾といった全国に誇れる大変素晴らしい自然があるため、様々な対象者へ充実した野外教育を提供できるはずである。

既に山口県内の自然を利用して「チャレンジ&クエスト」として青少年自然体験活動推進事業が平成5年度より⁴⁾、現在では「心の冒険・サマースクール」等が山口県教育委員会により山口県独自の野外教育活動として実施されている⁵⁾。しかしこれらは、山口県内の限られた施設や場所を利用したプログラムであり、山口福祉文化大学本校近隣地域である山口県萩市、長門市および阿武町（以下、山口県北浦地区）を利用した野外教育プログラムは乏しく、参加者だけでなく教育・支援スタッフへも効果の高い山口県北浦地区での新規プログラムの開発可能性は高いと思われる。

そこで本研究は「山口県の自然を生かした高度な野外教育プログラムの開発」を主たる目的とし、そのための準備として山口県北浦地区における野外教育プログラムの実施状況を調査した。

2 方法

1) 調査対象

山口県北浦地区を調査対象地域とし、屋外で実施された教育的目的を含んだ行事等を野外教育プログラムとして、それらの計画または実施されたものを調査対象とした。

*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部

2) 調査項目

各地域について、行事名、実施日時、開催場所、対象者および参加者数、目的（ねらい、期待される効果）、活動種別（野外種目名）、主催、共催、後援、申込方法、参加費および開催費用等の項目について調査した。

3) 調査方法

調査期間は2009年9月24日から2010年3月31日であった。現在の萩市は2005年3月6日に7市町村（萩市、川上村、田万川村、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村）が合併して誕生したものである⁶⁾。旧萩市を萩地域、旧川上村を川上地域、旧田万川村を田万川地域、旧むつみ村をむつみ地域、旧須佐町を須佐地域、旧旭村を旭地域、旧福栄村を福栄地域として、各地域の野外教育プログラムの調査結果をまとめた。長門市は教育委員会を通じ野外教育に関する資料を収集し各公民館で、阿武町は教育委員会を通じ資料を収集し各学校で調査結果を集計した。

3 結果

1) 萩市

(1) 萩地域

萩地域社会教育振興事業として「松陰の道歩行大会（10月25日、参加者60名）」が計画・実施されていた。

(2) 川上地域

川上地域社会教育振興事業として「山登りに挑戦！！（11月14日、参加者が少ないため中止）」、「カヌー教室（8月8日、参加者18名、8月29日、参加者10名）」、「川上地域走ろう会（1月9日、参加者74名）」、「川上地域スキー教室（2月7日、参加者が少ないため中止）」が計画・実施されていた。

(3) 田万川地域

田万川地域社会教育振興事業として「放課後子ども教室 素潜りに挑戦（8月7日、参加者24名）」が計画・実施されていた。

(4) むつみ地域

むつみ地域生涯学習推進事業として「むつみっ子探検隊 カヌーに挑戦しよう（7月27日、参加者6名）」が計画・実施されていた。

(5) 須佐地域

須佐地域生涯学習推進事業として「のびのび教室 ハイキング（夏季）、スケート教室、スキー教室（2月7日、参加者48名）」が計画・実施されていた。

(6) 旭地域

旭地域社会教育振興事業として「ふるさと体験隊 カヌー（8月8日、参加者3名）、海釣り（10月24日、参加者が少ないため中止）、スキー（2月13日、参加者13名）」、「旭駅伝大会（12月12日、インフルエンザ流行のため中止）」計画・実施されていた。

(7) 福栄地域

福栄地域社会教育振興事業として「ふくえもんクラブ カヌー教室（7月、参加者22名）、スキー教室（2月7日、参加者48名、むつみ地域と共催）」が計画・実施されていた。

(8) その他

「海遊び～in 見島しない会？（7月25日、海水浴・魚釣り・ゆりや貝探し等、萩市見島砂見田キャンプ場）」が萩総合支援学校の児童、生徒および卒業生とその保護者を対象として計画されていた。しかし悪天候のため、多目的施設「ゆう・ゆう・はぎ」（萩市椿東）における懇親会に変更された。萩市手をつなぐ育成会連合会により萩市内の児童生徒を対象と

して「第38回野外交歓会（7月27日、海水浴、萩市菊ヶ浜海水浴場）」が計画・実施されていた。また、萩往還ワンデーウォーク実行委員会により「萩往還ワンデーウォーク2009（10月17日、9.8kmと19.3kmの2コース）が実施された。さらに、萩クロマグロトーナメント実行委員会により「第12回萩クロマグロトーナメント（11月20～28日、山口県萩市見島沖）」が実施された。萩市見島沖合はクロマグロが回遊・滞在する日本有数の好漁場の一つであるが、「見島漁場において、漁業と遊漁の秩序ある漁場利用を図り、漁業者と遊漁関係者が相互理解を深めながら釣りのルールとマナーの確立を図ること」を目的として開催された⁷⁾。その結果、俳優の松方弘樹さんが300kgを越えるクロマグロを2年連続釣り上げ2連覇を果たした⁸⁾。萩城下町マラソン大会実行委員会により「第10回維新の里萩城下町マラソン大会（12月13日）」、萩市駅伝競走大会実行委員会により「第59回萩市駅伝競走大会（1月17日、2部門、22.5km、5区間・7区間）」が計画・実施されていた。

2) 長門市

(1) 俵山公民館

長門市青少年育成市民会議俵山支部活動として「史跡ハイキング（3月6日、参加申込者67名、雨天のため中止）」、学校と地域の連携事業として「タケノコ堀り（4月25日、参加者49名）」、「水辺の教室（8月5日、参加者21名）」が計画・実施されていた。

(2) 三隅公民館

長門市三隅公民館事業として「健康ウォーキング大会①（4月）」、「健康ウォーキング大会②（9月22日）」、「長門大津駅伝大会（10月17日）」、「長門市市民駅伝大会（1月31日）」、「山口県読売駅伝大会（2月14日）」が計画・実施されていた。

(3) 通公民館

長門市通公民館主催事業として「親子ふれあい水泳教室（8月4～6日、参加者26名）」、「史跡めぐり（10月17日、参加申込者13名、雨天のため中止）」、「地引網（8月26日、参加者28名）」、「クリーンウォーク in かよい（8月2日、参加者110名）」が計画・実施されていた。

(4) 仙崎公民館

仙崎公民館ではふるさと生涯学習教室として「海の子山の子体験教室（2回、参加者54名、俵山公民館との連携事業）」が計画・実施されていた。

(5) 油谷中央公民館

長門市油谷では「竹島キャンプ（8月1・2日）」、「ふれあいハイキング（9月27日）」、「バードウォッチング・椎茸の菌打ち（1月10日）」、「妙見山清掃（3月28日）」、「各地区こども会クリーンアップ（随時）」が計画・実施されていた。なお、ほとんどの行事が“NPO自然と遊び隊”との共催であった。

3) 阿武町

(1) 奈古小学校

阿武町立奈古小学校では「宿泊体験学習（7月30日～8月1日の3日間、4・5年生）」、「つなひき大会（12月6日）」が計画・実施されていた。

(2) 福賀小学校

阿武町立福賀小学校では「仲良し園田植え（5月8日）」、「ふれあい教室（7月25・26日）」、「ふれあい遠足（9月25日）」、「小中福賀地区クリーン作戦（10月6日）」、「町内陸上記録会（10月7日）」、「仲良し園稲刈り（10月9日）」、「綱引き大会（12月6日）」が計画・実施されていた。

(3) 福賀中学校

阿武町立福賀中学校では「小中福賀地区クリーン作戦（10月6日）」、「町綱引き大会（12月6日）」、「阿武町中学校二校交流学习（スキー、1月29日、参加者25名、引率教員7名、十種ヶ峰青少年野外活動センター）」が計画・実施されていた。

(4) 阿武中学校

阿武町立阿武中学校では「いかだ大会（7月26日）」、「阿武町ふれあい歩こう大会（10月4日）」、「山口県駅伝大会（11月14日）」、「町力比べ綱引き大会（12月6日）」、「阿武町中学校二校交流学习（1月29日）」が計画・実施されていた。

4 考察

1) 見島（萩市沖）

萩市の沖合いには、高速船「おによらず（鬼揚子、258トン）」に乗ると70分で到着できる豊かな自然に囲まれた面積7.8km²の見島があるが⁹⁾、この見島周辺には日本有数の好漁場である見島八里ヶ瀬がある。この八里ヶ瀬の漁業資源保護等にむけたシンポジウムも開催されており¹⁰⁾、見島は山口県の誇るべき最も美しい自然の一つである。慶応義塾大学では「野外に飛び出せフィールドワーク 慶応義塾 夏の学校2010」として、沖縄県西表島という離島で行う体験実習を計画している¹¹⁾。これは生物多様性を理解しながら環境問題について学ぶもので、マングローブ林と生物観察、カヌーによる観察などに加えて、土地の人の生活を知ることを含むものであった。地域の方々と協力し十分な事前準備を行えば、「人類の福祉向上に貢献できる人材の育成」という本学の建学理念¹²⁾や近隣に萩総合支援学校が位置するという本学の独自性を生かして、「離島」と「福祉」をキーワードとした野外教育プログラムの可能性が

生まれるだろう。実際に「海遊び～in見島しない会？」が萩市見島砂見田キャンプ場において萩総合支援学校の児童および生徒などを対象として計画されていたことから、本学との協力によりさらに内容が豊富で充実した野外教育プログラムを計画し実施することが可能であると思われる。

2) カヌー教室

萩市川上地域での調査結果を基に公民館担当者に問い合わせ、調査翌年度である平成22年8月29日に実施された「第3回カヌー体験研修会」（図1）を視察し、研修会関係者に聞き取り調査を実施した。



図1 カヌー研修会

この研修会は日本カヌー連盟が主催し日本財団の助成を受け2010年度は国内4ヶ所（他は岡山県岡山市、長崎県諫早市、新潟県三条市）で実施されるものであり、「カヌー体験を通し、水と自然に親しみ、そのすばらしさと楽しさを実感してもらおうと同時に、水遊びに潜む危険についても理解を深める」ことを目的とし、対象者は健常者だけでなく障がいをもった方も含んだものであった¹³⁾。下肢に障がいをもった方は、カヌーへ乗り込むことに困難があるが、カヌー上では下肢で体重を支える必要がなくなるためにハンディキャップが減少することから、下肢に障がいを抱えた方にも薦めることが

できる野外スポーツである。実際に、カヌーへの乗船や操船を山口県カヌー協会関係者が援助することによって、様々なハンディキャップを有する方もカヌーを楽しんでいた。研修会の会場となった萩市川上阿武川温泉は山口国体カヌー競技（カヌースラローム、カヌーワイルドウォーター）の会場¹⁴⁾として施設や設備等が整備されていることから、地域と連携すれば様々な人を対象としてカヌーを利用した効果的な野外教育プログラムを実施することが可能であろうと思われる。しかし、カヌーは風の影響を受けやすく水上でのスポーツであることから、転覆等の危険性も考慮し安全で効果的に実施するためには経験豊富なスタッフや救助用備品等を含めて十分な準備が必要である。

3) 野外教育プログラムの評価

既に実施されている野外教育プログラムの改良・発展や独創性が高く効果の大きな野外教育プログラムを開発するには、その評価方法を確立することも必要である。野外実習評価に関しては千足ら¹⁵⁾、二瓶ら¹⁶⁾ および出口と堀¹⁷⁾によるものなどがあるが、これらは授業評価に主眼をおいたものであるため、この評価方法を一般の野外教育プログラムへ使用することは難しいと思われる。田中ら¹⁸⁾は児童を対象としたキャンプに関する評価尺度を作成し、その信頼性と妥当性について検討しているが、他の年齢層や種目にも利用できる汎用性の高い評価方法の作成も高度な野外教育プログラムの開発に求められるであろう。

5 総括

山口県の自然を生かした高度な野外教育プログラムの開発を目指し、そのための準備として山口県北浦地区における野外教育プログラムの実施状況を調査した。その結果、本学の立地条件や独自性を生かし、「離島」「福祉」「カヌー」をキーワードとした野外教育プロ

グラムの開発の可能性が明らかとなり、それらを安全かつ効果的に実施するためのスタッフ（打ち合わせ含む）、施設、設備等の事前準備が必要であることを確認した。また、高度な野外教育プログラムを開発するには、その評価方法の作成も求められることが推察された。

6 謝辞

本研究は「平成 21 年度ひとつくり財団研究・研修助成事業助成金（山口県ひとつくり財団）」および「平成 21 年度山口福祉文化大学学長裁量経費研究費助成（山口福祉文化大学を中心とした野外教育の実践、研究代表者：国広勝代）」の補助を受けて実施したものである。ここに記して、謝意を表す。また、本稿は山口福祉文化大学野外教育研究会編集による調査報告書¹⁹⁾に加筆・修正を行なったものである。

引用・参考文献

- 1) 日本野外教育学会；日本野外教育学会設立趣旨，<http://www.joes.ne.jp/joes/>，2010年8月29日
- 2) 青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議；青少年の野外教育の充実について（野外教育の現状と課題），http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/003/toushin/960701c.htm，2010年8月29日
- 3) 国立公園協会；国定公園ガイド，<http://www.npaj.or.jp/parks/quasi-np/11.html>，2010年8月29日
- 4) 山口県教育委員会；平成 13 年度青少年自然体験活動推進事業報告書チャレンジ&クエスト，山口県教育庁社会教育課，2002
- 5) 山口県教育庁社会教育・文化財課；心の冒険・サマースクール，

- <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50400/summer-s/summer-school.html>, 2010年8月29日
- 6) 萩市；萩広域7市町村合併協議会,
<http://www.city.hagi.lg.jp/gappei/>, 2010年8月29日
- 7) 萩市役所観光課；第12回萩クロマグロトーナメント開催要領,
http://www.city.hagi.lg.jp/uploaded/life/28050_35202_misc.pdf, 2009年11月30日
- 8) 萩市役所広報課；松方弘樹さん、特大マグロ釣る2年連続で300キロ超,
http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/detail.htm?lif_id=29116, 2010年8月30日
- 9) 萩海運有限株式会社；山口県萩市平成22年度時刻表大島/相島/見島, 2010
- 10) 萩市；見島八里ヶ瀬シンポジウムを開催,
http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/detail.htm?lif_id=30129, 2010年8月17日
- 11) 慶應義塾未来先導基金；野外に飛び出せフィールドワーク 慶應義塾 夏の学校2010, http://www.dff.keio.ac.jp/activity/programs/2010/07_detail.html, 2010年8月30日
- 12) 山口福祉文化大学；Campus Guide 2011, p.5, 2010
- 13) 日本カヌー連盟；カヌー体験研修会,
http://www.canoe.or.jp/tournament/result/canoe_workshop10_3.pdf, 2010年8月30日
- 14) おいでませ！山口国体・山口大会実行委員会；おいでませ！山口国体開催競技の紹介カヌー, http://www.choruru.pref.yamaguchi.lg.jp/kokutai/sports/s_canoe.html, 2010年8月30日
- 15) 千足耕一, 川田儀博, 永嶋秀敏；スクーバ・ダイビング実習(専門野外教育I)における学生による授業評価, 国士舘大学体育研究所報, 18:103-111, 1999
- 16) 二瓶雄樹, 坂口俊哉, 出口順子；野外活動実習の評価とその履修動機に関する一考察-2007年度マリン実習からのデータを基礎に-, 中京大学体育学論叢, 49(2):33-43, 2008
- 17) 出口順子, 堀佳子；野外運動実習(キャンプ)参加者の授業評価に関する研究, 東海学園大学研究紀要, 15:109-122, 2010
- 18) 田中伸彦, 渡辺貴史；児童用組織キャンプ体験評価尺度の作成および信頼性・妥当性の検討, 野外教育研究, 6(1):49-61, 2002
- 19) 山口福祉文化大学野外教育研究会；山口県、島根県および中部地区における野外教育の実施状況, マシヤマ印刷, 2010